



平成23年8月11日

	観光振興課
担当者	浦津、久柴
内線	2645
ダイヤルイン	895-2645

「長崎県観光動向調査」について

本県の平成23年1～3月期における観光動向について、
別添のとおりまとめましたので、お知らせいたします。

本県では、平成19年1月より、観光客数の動向（トレンド）を適宜把握する
目的で、年1回公表の「長崎県観光統計」とは別に、観光動向に関する調査を実施
し、3ヵ月毎にその結果を「長崎県観光動向調査」としてお知らせしております。
調査概要の詳細は別添資料をご参照願います。



長崎県観光動向調査

(平成23年1～3月分)

主要指標

	対象施設	延宿泊客数 利用者数	対前年同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	170	869千人	3.8%	34千人
主要観光施設	23	1,275千人	13.5%	199千人
一支国博物館を含む24施設		1,293千人	13.1%	196千人

()主要観光施設の動向については、「一支国博物館」の開館(22年3月)の影響が大きい
ため、同施設を除いた23施設の合計値を主要観光施設利用者数としている。

概況

主要宿泊施設の宿泊客数は、1月は+2.6%、2月は+2.1%であったが、3月は東日本大震災の影響により旅行を手控える動きがみられたため、12.8%と大幅に減少し、1～3月期全体では3.8%となった。

主要観光施設の利用者数は、1月の大寒波により交通手段が麻痺したことや、一部の龍馬関連施設で前年からの反動がみられたことに加え、3月には、震災により大幅に減少したことから、1～3月全体では13.5%となった。

主なブロックの動向

【長崎・西彼ブロック】

ランタンフェスティバル開催期間中の悪天候による観光客の減少があったものの、外国人観光客の増加により、宿泊客数は、1月は大幅増、2月は前年並みとなった。しかし、3月の震災の影響により、観光客が減少したため、1～3月の宿泊客数は対前年同期比 5.1%となった。また、長崎歴史文化博物館など一部の龍馬関連施設では、前年からの反動がみられた。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

1月、2月は、新規イベントを展開したハウステンボスの集客が増加したことから、宿泊客数は大幅に増加した。しかし、3月は、震災の影響により観光客が減少したため、1～3月の宿泊客数は対前年同期比 2.7%となった。

【島原半島ブロック】

1月の大寒波に伴い、仁田峠の通行止めが数多く発生したことなどから、宿泊客数は大幅に減少した。また、3月は震災の影響も受けたため、1～3月の宿泊客数は対前年同期比 11.3%となった。

【五島ブロック】

五島市が実施した宿泊促進キャンペーンによる一定の効果はみられたものの、前年のモニターツアーによる増加からの反動減や、3月に発生した震災の影響などから、1～3月の宿泊客数は対前年同期比 8.1%となった。

【壱岐ブロック】

3月は、震災の影響を受けたものの、ビジネス利用による長期滞在客の増加がプラスに働き、1～3月の宿泊客数は対前年同期比 + 11.4%となった。

【対馬ブロック】

韓国人観光客が前年の円高ウォン安による減少から持ち直し、1月、2月の宿泊客数は前年を上回った。しかし、3月に発生した震災の影響により、韓国人観光客が大幅に減少し、1～3月の宿泊客数は対前年同期比 14.4%となった。

各ブロックの構成市町は以下の通り。

長崎・西彼：長崎市、長与町、時津町

佐世保・西海・東彼・北松

：佐世保市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐々町

平戸・松浦：平戸市、松浦市

諫早・大村：諫早市、大村市

島原半島：島原市、雲仙市、南島原市

五島：五島市、新上五島町、小値賀町

壱岐：壱岐市

対馬：対馬市

(参考) 外国人観光客の動向 (ご協力いただいた施設のためのサンプル調査)

1月、2月の外国人宿泊客数は、中国、韓国、台湾などで景気が回復したため、対前年同期比で大幅増となった。

3月は、震災の影響により、外国人宿泊客数は激減し、対前年同期比大幅減となった。

その結果、外国人宿泊客数は、前年同期に比べ、+2.2%にとどまった。

参考資料 主要宿泊施設・観光施設の月別動向（県全体）

主要宿泊施設の宿泊者数（県全体）



主要観光施設の利用者数（県全体）



